

良質米の生産は基本技術の励行から！

生産履歴は必ず記帳しよう！

●農薬(毒物・劇物)の購入には、印鑑が必要です。

6月 7月 8月 9月 10月
作業日
稲の生育と主な作業
6月15日植
除草剤散布
田植 植付本数3〜4本
品種特性
出穂期
品種特性
表 出穂期 成熟期 稈長 m²当り穂数 耐倒性 耐病性
8月19日頃 9月26日頃 84cm 377本 やや弱 弱
○いもち病に弱いので適期防除につとめる。
落水
成熟期
収穫
(出穂から40日前後)
(出穂から45日前後)
施肥 元気つくし
(kg/10a)
表 肥料名 施肥量
セルカオイスターミネラル 100
ミネラルG・珪鉄 200
けい酸加里 40
(kg/10a)
表 肥料名 施肥量 成分量
N P K
穂肥をしない施肥体系(緩効性肥料) 基肥 中稲有機一発 50~55 9 4.5 5
※いもち病の多発圃場では変更前の45kg/10aで使用して下さい。
基肥+穂肥の施肥体系
基肥 レコアップ055 55 5.5 2.7 2.7
穂肥 エムコート206 15 3.0 0 2.4

6月 7月 8月 9月 10月
作業日
稲の生育と主な作業
6月20日植
除草剤散布
田植 植付本数3〜4本
品種特性
出穂期
品種特性
表 出穂期 成熟期 稈長 m²当り穂数 耐倒性 耐病性
8月26日頃 10月6日頃 84cm 379本 やや弱 やや弱
落水
成熟期
収穫
(出穂から45日前後)
(出穂から45日前後)
施肥 ヒノヒカリ
(kg/10a)
表 肥料名 施肥量
セルカオイスターミネラル 100
ミネラルG・珪鉄 200
けい酸加里 40
(kg/10a)
表 肥料名 施肥量 成分量
N P K
穂肥をしない施肥体系(緩効性肥料) 基肥 中稲有機一発 50~55 9 4.5 5
※いもち病の多発圃場では45kg/10aで使用して下さい。
基肥+穂肥の施肥体系
基肥 レコアップ055 55 5.5 2.7 2.7
穂肥 スーパーユーキくん3号 25 2.5 0.7 2.0

土づくり
・稲わらは水田に全量還元する。
・土壌改良材の施用...毎年10a当りミネラルGが珪鉄を200kg散布もしくは、セルカオイスターミネラル100kgを散布する。
・基肥に家畜糞尿の醗酵堆積物を使用する場合は、10a当り牛糞堆肥2トン(春先までに施用)する。
また発酵鶏糞を使用する場合は150kgを田植2週間前までに施用、基肥の施用量は標準の1/2程度とする。

育苗
1. 資材の準備
○種子: 10a当り3.5kg
○培土
1箱当り
床土は2.5kg
覆土は1.0kg
○山土を使用する場合は、焼がら又は培土を容量の3割混合する。
○施肥 育苗肥料4・4・4
山土を使用する場合は、育苗肥料4・4・4(1kg)を50箱分の土に使用する。
2. 種子消毒
○水20ℓにテクリードCフロアブル100mℓを溶かし24時間浸漬させる。
(割合は1:2とする)
(例: 種子10kgに対し薬剤20ℓ)
又は、温湯60℃に10分間浸漬後、水で十分に冷却し浸種を行う。

播種前後の管理
○種子消毒(薬剤又は温湯)を行なう。
○浸種は積算温度100℃を目標に、水温20℃で5日間、程度行う。
また、水は1日1回入れ替える。
○種子を水からあげて陰干しし、確実に芽出しさせる(ハト胸〜1ミリ)
○播種前に床土に十分にかん水し、次に苗立枯病予防のため、タチガレン液剤100mℓを水100ℓ(100箱分)に溶かしかん注する。(1箱当り1ℓ)
○1箱当りの播種量は催芽後150g(1.3合)を基準とし、出来るだけ「うす播き」をする。
○育苗箱は日当りの良く風通しのよい均平な場所にビニールを敷き、その上にリン木を敷いた上にならべる。
○カビが発生したらダコレート水和剤100gを水50ℓに溶かし、かん注する。(100箱) (1箱当り500cc)
○苗いもちの発生が予想される時は、ビームゾルをかん注する。(150倍液) (1箱当り500cc)
○被覆期間は7日程度とし苗の腰の高さが4〜5cm位になったらラシートを除去する。但し、元気つくしについては6日程度とする。
○かん水は床土の表面が乾いたら十分行う。草丈約13cm
夕方のかん水は避ける。
○バカ苗病が発生したら直ちに抜き取る。
○弁当肥の施用(田植前5日頃)
硫酸250gを水50ℓ(100箱分)に溶かしかん注する。(田植えが予定より遅くなり苗が老化する場合)

適用害虫と使用方法(ジャンボタニシ)
表 薬剤名 使用時期 使用量 本剤の使用回数
スクミノン 収穫60日前まで 1〜4kg あわせて2回以内
ジャンボたにくん 収穫60日前まで 1〜2kg

除草 農薬使用時は必ず別紙の「水稻農薬一覧」を確認
○本田除草剤
表 剤 除草剤名 使用時期 使用法(10a当り) 使用上の注意
粒剤 ウルフェース粒剤 移植直後〜ノビエ2.5葉期迄 3kg 湛水 ・各種多年性雑草(セリも含む)やノビエ等が全面的に発生する水田。
・軟弱苗には使用しないこと。
液剤 キマリテ1キロ粒剤 移植後5日〜ノビエ3.0葉期迄 1kg 湛水 ・薬害発生が懸念される為、移植5日以降からの使用を推奨。
・1年生及び多年草の幅広い雑草に有効。
・雑草を白化させて枯らす。
バク剤 エンペラー1キロ粒剤 移植時〜ノビエ3.0葉期迄 1kg 田植同時湛水 ・田植同時散布機で施用できる。
・ノビエやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。
液剤 エンペラージャンボ 移植後3日〜ノビエ3.0葉期迄 10/バック(250g) 湛水 ・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。
・ホタルイカやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。
・10/バックを水田に均等に投げ込む。
液剤 エンペラーフロアブル 移植後3日〜ノビエ3.0葉期迄 500mℓ 湛水 ・各種多年性雑草やノビエ等が全面的に発生する水田。
・ホタルイカやコナギ等の抵抗性雑草が発生する水田。

○中後期除草剤
表 対象田 除草剤名 使用時期 使用量(10a当り) 使用上の注意
広葉雑草コナギ・ウリカワ等 バサグラン粒剤 移植後15〜55日 収穫60日前まで 3〜4kg ・10a当り3〜4kgを均一に散布する。
・散布1〜2日前に落水し、足た水くらいで散布する。
・散布後3日間は水を入れないこと。
ノビエ・広葉雑草コナギ・ウリカワ等 ワイドパワー粒剤 移植後20日〜ノビエ5葉期まで 収穫60日前まで 3kg ・液剤は、動力噴射機での散布は薬害が生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理をすることが望ましい。
又高温条件下での散布は薬害が生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合は、夕方に散布する。
ワイドアタックSC 移植後20日〜ノビエ6葉期まで 収穫30日前まで 100mℓ

この栽培ごよみはJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

●農薬を使用する際は、必ずラベルの確認をしましょう●